



1. 第4回 ITER 理事会開催—ITER 建設完了に向けたアプローチの承認—

2009年6月17-18日、水戸市において第4回ITER理事会が開催された。初日の冒頭、橋本茨城県知事は歓迎の挨拶の中で、「我々は、エネルギーの安定な供給方法を見出し、地球温暖化に歯止めをかける積極的な役割を担わなければならない。核融合は永続的な可能性を秘めたエネルギー源であり、環境への影響もほとんどないので、我々はそれに大いなる希望と期待を寄せている。ITER計画の成功を切に願う。」と、ITER計画の重要性を強調した。

池田ITER機構長は、ITERサイトの整地の完成を含む前回ITER理事会(2008年11月)からの事業の進捗を報告し、「我々は地球規模の協力の新しいモデルを構築しており、世界が我々の進捗を見守っている。我々はITERの次の段階への発展を加速するために集まった。第4回ITER理事会会合が、核融合が安全で無尽蔵なエネルギー源であることを実証する途上にある記念すべきイベントであることを、私は希望し、確信している。」と述べた。

ITER理事会は、ITER計画基準文書の完成のための作業



ITER 参加極の代表団



ITER 理事会風景

の基準として、ITER建設の完了に向けた段階的なアプローチを承認した。このアプローチでは計画の全体的なリスクを大幅に低減させるために、真空容器の内側に設置する機器を取り付ける前に、ITER本体の主要機器の組立と試験を一緒に行う。ITER機構はこれにより2018年末までに最初のプラズマ発生を行い、2026年にDT運転を開始するとの目標期日を設定し、ITER理事会はこれを支持した。

ITER理事会は、関連する諮問委員会および作業グループからの報告を検討し、ITER計画の着実な進展を確認した。また、ITER協定に従い2年毎に実施する運営評価のために、運営評価人を任命し、運営評価調整委員会を設置した。

次回ITER理事会は2009年11月18-19日にカダラッシュで開催する予定である。

2. ITERダイバータ外側垂直ターゲットの調達取り決めに調印—ダイバータの調達が正式に開始—

原子力機構は、第4回ITER理事会の会場において、ダイバータを構成する高熱負荷機器の一つであるダイバータ外側垂直ターゲット(以下、外側ターゲットという。)の調達取り決めにITER機構と締結した。今後、ダイバータの調達が正式に開始される。

ダイバータ評価試験体がロシアでの評価試験に合格したことを受け、原子力機構とITER機構では外側ターゲットの調達取り決めの策定作業を共同して実施してきたが、このたび、調達取り決めに両者の間で取りまとめられ、調印の運びとなった。原子力機構では、外側ターゲット調達の最初のステップとして、平成21年度より、外側ターゲット実規模プロトタイプ製作および試験に着手する。

(日本原子力研究開発機構 核融合研究開発部門)



図1 ダイバータ調達取決めに調印し、握手を交わす池田ITER機構長(右)と長岡原子力機構国際部長(左)